

平成30年度 第2回印西市スポーツ推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成31年3月11日（月）午後2時00分から午後4時20分まで
- 2 開催場所 印西市役所会議棟201会議室
- 3 出席者 青木和浩会長 五十嵐靖宏委員 大木栄治委員 内田卓男委員
青柳豊子委員 高梨峰子委員 早野 敏委員 三浦 徹委員
寺島光浩委員
- 4 欠席者 新納健也委員
- 5 事務局 大木教育長
スポーツ振興課 鈴木課長 村越主査 佐藤主査 田中主任主事
- 6 傍聴者 0人
- 7 会議 以下のとおり

1. 開 会 進行 事務局

2. あいさつ 大木教育長 青木会長

3. 報告事項

(1) 平成30年度スポーツ事業の報告について

— 事務局説明 —

— 質 疑 —

(委員) 「みるスポーツ」として、見ることに重点を置かれているのであれば、来場者数は把握しておく必要があると思いますが「7印西卓球教室」等来場者数が記載されていません。把握はされていますか。

(事務局) 市の主催事業については把握しています。

資料に記載がありませんが、印西卓球教室は参加者を含め約120名、リードジャパンカップは選手を含め約1,100名の来場者数でした。関東女子駅伝等、把握が難しいものもありますが、できるだけ把握につとめ次回から資料に記載いたします。

(委員) 「みるスポーツ」については、見に来た方の人数がどのくらいであったか、見ることに焦点をあてて集計したほうが良いと思います。

(事務局) 「みるスポーツ」については、観客数も区分して記載いたします。

(委員) 「7印西卓球教室」では講師として平野選手が来ていますが、卓球がメディアで盛んに取り上げられているなか、参加者94名は少ないと感じます。人数制限をしているということですか。

(事務局) 指導者と相談し、午前午後50人ずつということになりました。定員の都合上一般の募集はかけておりませんが、市内中学校の卓球部を中心に声をかけさせていただき、3年生を除く卓球部員約120名の内94名にご参加いただきました。

(委員) 「スポーツフェス2018」の延べ参加者数が、4,580名で前年度比1,300名増との報告がありましたが、増加の要因として何か新しい取り組み等があったのですか。

参加者数を増やしていくことは基本計画に記載していますので、この場で議論ができるように、前年度と比較して増えているのか、減っているのかをご報告いただきたい。

(事務局) スポーツフェスの4,580名につきましては延べ人数になっております。実際に受付を通った人数の比較ではH29年度が1,111名、今年度が1,189名で78名の増となっております。今年度は新しくゲートボールを追加しましたが、種目が増えれば延べ人数が増えることとなります。

種目の追加についてはスペースに若干の余裕がありますが、現状では駐車場が不足しています。今後はシャトルバスの効果的な運行や当日参加できる種目を増やすなどし、利用者数の増に繋げていきたいと考えています。

(委員) これだけの事業を実施するにあたり、事務局の人数が足りないのではないかと思います。他の部署等との連携はどうなっていますか。

(事務局) スポーツフェスでは教育部内の課及び保育課のほか、体育協会やスポーツ少年団にご協力いただき実施しています。今年度は関係団体と協力しゲートボールとポッチャを新たに実施しました。今後とも協力体制を強化するよう努めていきたいと考えています。

(委員) 資料に記載がありませんが、中学校のクラブ活動についてはこの審議会では扱わないのでしょうか。また、どこまで把握されていますか。

(事務局) 中学校の部活動については学校教育の一環として教育委員会の指導課が担当しています。ただし、同じ中学生であっても、地域のスポーツ団体等での活動につきましてはスポーツ振興課が担当になります。

(委員) 学校の部活動が良い成績を残すということは、印西市としてスポーツのレベルが上がっているとはとらえられないということですか。

(事務局) 基本的に同じことです。

(委員) 小中体連という組織があり部活動の大会等を実施しています。部活動については教育の一環であり、どのような部活があるかや部員等は指導課で把握しています。

(委員) スポーツ振興課ではスポーツを推進していますが、部活動の推進については関わらないということですね。

(会長) 部活動の推進については、小中体連や指導課が行っており、それ以外の地域のスポーツクラブの活動等の推進についてはスポーツ振興課で担当していますが、今後、部活動の改革によって変わってくる可能性はあります。

学校の先生は授業を受け持ち、部活動については地域のスポーツクラブでとなれば、市のスポーツ振興施策として反映されることになると思います。

(会 長) スポーツフェスについては、来場者数はほぼ横ばいです。来場者を増やす策と回転数を増やす策がありますが、駐車場や交通機関の問題がありますので、種目を工夫し、参加者数と満足度を高めていただきたい。

(委 員) 「18スポーツ大会出場奨励金」について、件数だけでなく内容も載せたほうが良いと思います。

(事務局) 次回から資料に記載いたします。

(委 員) 中体連、高体連等の大会は奨励金の交付対象になりますか。

(事務局) 対象になります。予算の範囲内で交付することになります。

(委 員) アスリート教室がありますが、メダリストに来ていただくことも良いですが、順天堂大学の選手に活動していただくことも良いかと思えます。

(会 長) 順天堂大学に限らず、市民大会で活躍された選手等、市内の選手が子どもたちを指導するといった、市内で循環する仕組みになると良いと思います。

4. 議 事 <議長 青木会長>

(1) 平成31年度スポーツ事業の計画について

— 事務局説明 —

— 質 疑 —

(委 員) ラグビーの団体はどのくらいあり、どこの団体に加盟していますか。

(事務局) 大人と子どものスクールがひとつずつあり、子どものスクールは印西市スポーツ少年団に加盟しています。

(委 員) ラグビー祭りにだけ、補助金が交付されていますがなぜですか。

(事務局) ラグビー祭りにつきましては、行事補助金を活用しています。行事補助金は他の団体も申請が可能で、ラグビーの団体に限ったものではありません。

(委 員) 予算額は前年度比を記載していただきたい。増減があることで、どこに注力しているかがわかるようになります。

「6リードクライミングワールドカップ」の予算額が1,180万円で「20スポーツ施設の管理・運営」に次いで多いですが、去年はありましたか。

(事務局) ワールドカップにつきましては、前回の印西市での開催が2014年で、決算額が224万円でした。今回1,180万円計上させていただきましたが、内756万円はクライミングウォールの改修費用となっております。クライミングウォールにつきましては、平成22年の完成から傷みが進んでおり、改修を考慮しておりましたので、ワールドカップの開催に合わせて改修させていただいた経費として計上いたしました。

改修費用を除くと400万円程になりますが、オリンピック種目となったことから前回よりも観客が増えることが予想され、シャトルバスを増便しますので、前回よりも増額しています。

(委 員) ワールドカップの主催はどこですか。

- (事務局) 日本での窓口は日本山岳・スポーツクライミング協会です。協会からクライミング施設のあるところに打診があり、印西市で誘致させていただきました。
- (委員) 協会から運営費は出ますか。
- (事務局) 大会の運営の部分は日本スポーツクライミング協会が支出します。誘致するにあたり、印西市としてはウォールの改修とシャトルバスの運行等の費用を負担することとしています。
- (委員) 1,180万円の内訳については、丁寧に説明されるべきであると思います。
ワールドカップを印西市で開催するのであれば、教育振興基本計画のどこに位置付けられているのか、事業は計画に基づいていなければならないと思います。この審議会に諮る上で、明確にしておいていただきたい。
- (委員) ワールドカップの観戦は有料ですか。
- (事務局) 前は有料でしたので今回も有料になると思います。決勝は2000円程度になると思います。
- (委員) クライミング競技は人気がありますが、今年度ワールドカップがあり、来年度はオリンピックもあります。その後も印西市としては変わらずクライミングの普及を進めていくという考えですか。
- (事務局) 特色ある事業として、今後も進めて参ります。大会の誘致と併せて、市民にひろく普及するため、どう取り組んでいくのか課題があります。
- (委員) ワールドカップの開催によって、印西市の知名度が高まると思います。印西市を国内外にアピールするという目的を明確にして取り組んでいただきたい。
- (会長) 広報につながるというのは大事だと思います。シティプロモーションと連携して市民にも広くアピールするよう考えていただきたい。
- (会長) 「15 学校体育施設開放事業」について2校の閉校とありましたが、跡地はどのように活用するか決まっていますか。
- (事務局) 教育委員会で跡地活用の委員会を設置して検討しています。スポーツ振興課としては、宗像小学校の体育館は比較的新しいので引き続き体育施設として利用していきたいという意向は示しています。
本埜第二小学校は借地部分があり、敷地をどうしていくか委員会で検討しています。
- (委員) 永治小学校はどうなっていますか。
- (事務局) 永治小学校は、教育委員会、市長部局で利用案がなく、現在、民間に投げかけているところと聞いていますが、詳細は把握しておりません。
施設が多ければ維持管理費がかさみますので、必要性や利用形態を勘案して統合や廃止等で減らしていくことを基本としています。
- (会長) 維持管理費等の問題はありますが、スポーツ推進の立場では、子どもたちが運動できる環境は残してほしいと思います。
- (委員) 大学スポーツ協会ユニバスが設立されましたが、順天堂大学での活動等があ

りましたらお話し願います。

(会 長) 日本版NCAAといわれるユニバスという組織が設立されました。大学スポーツの統括組織で、加盟大学が200校程です。今後何年かかけて運用面が整備されていくことになると思いますが、いまのところ、部活動中の事故防止や学業との両立を進める指針を示すということがメインになっており、地域とのかかわりについてはまだ先のことになると思います。

順天堂大学としては、ユニバスの取り組みの延長でパラスポーツの振興イベントとして、市内小学校でポッチャ、ゴールボールを普及していく活動をしているところです。

(2) その他

(委 員) 組織改正でスポーツ少年団が教育委員会から市長部局に移ることに関連してですが、スポーツ少年団では子供が少なくなっており、人員確保に苦勞しています。小学校を通じてチラシを配布するなどの取り組みをしており、今後もスポーツ振興課から各部局につなげていただきたいと思います。

(事務局) 組織改正後につきましても教育委員会との協力体制はとっていきたいと考えています。

(委 員) 総合型スポーツクラブについて、学校としてはどのようにとらえていますか。小中学校の部活動の受け皿になることが可能であれば、先生の負担軽減になると思います。

(委 員) 部活動にはいろいろな目的があって、先生や保護者の考えによっても異なります。やるからには勝ちたいという子どもたちの思いや勝たせてあげたいという保護者の思いもあります。いろいろな立場がありますので難しい問題であると思います。

(委 員) 牧の原スポーツクラブでは、勝敗よりも健康で長くスポーツを続けること、生きがいを感じて生涯スポーツを続けていくことを一番大事にしています。

(会 長) 部活動では保護者等の要求水準によって取り組み方が変わってきます。

さきほどのNCAAの考え方は、複数のスポーツを経験し、休みの期間を設け、学業と両立させるもので、これはスポーツが文化として捉えられるようにならないと難しいと思います。2020年は日本のスポーツに対する価値観を変えるチャンスであると言われていています。

5. その他

- ・組織改正について説明

6. 閉 会

以上

平成30年度第2回印西市スポーツ推進審議会会議録は事実と相違ないことを認める。

平成31年4月25日

スポーツ推進審議会 会長 青木 和浩

スポーツ推進審議会 委員 三浦 徹